



## 良質な睡眠を獲得できる睡眠医療を正しく広めたい

2012年6月取材

岐阜県岐阜市  
岐阜メイツ睡眠障害治療クリニック 院長  
田中 春仁 先生

2008年に岐阜市で開業した岐阜メイツ睡眠障害治療クリニック。院長の田中春仁先生は、睡眠障害の患者さんが心と体の健康を取り戻すことができるように専門性の高い睡眠医療を展開し、質の良い眠りを追求し続けています。

### 睡眠医療は心身疾患の症状改善につながる

不眠症、過眠症、睡眠時無呼吸症候群など、あらゆる睡眠覚醒関連疾患に悩む患者さんに、最新の検査・診断・治療を行う岐阜メイツ睡眠障害治療クリニック。長年、呼吸器系の医療に携わってきた田中先生は、かつては「睡眠は心療内科の領域」と考えていたそうです。「睡眠障害は心身への影響も大きく、さまざまな疾患を引き起こす要因になります。睡眠医療には客観的なデータに基づく評価方法があることを知り、睡眠医療の体系を作ることの重要性を感じました」。日本では一般の人にまだ睡眠医療が十分に浸透しておらず、間違った知識で睡眠障害をうつ病と認識してしまう人も多くいます。「うつ病と診断された患者さんの中にも睡眠治療を受け、うつ症状が軽くなるケースがあります」と田中先生は話します。



睡眠ポリグラフ検査の結果をモニタリングする検査・解析室。55㎡という広い空間にパソコンがズラリと並んでいます。睡眠検査専門のスタッフが終夜にわたり患者さんの睡眠状態を見守り続けます。

### 徹底したサービス改善への取り組み



受付と待合室。2012年2月にはスマートフォンやタブレットをWiFi環境下で使えるように整備しました。患者さんは回線接続のストレスもなく、仕事や娯楽の時間を過ごすことができます。

同クリニックでは、より良い医療サービスの提供にも注力しています。院内に設置した“接遇委員会”では、スタッフ全員を対象に同委員会に求めることについてアンケート調査を行いました。その結果を踏まえて“身だしなみについての基準”を作成。翌年には、「目を見て挨拶する」、「常に笑顔を絶やさない」といった“行動基準”をまとめるなど、接遇改善に取り組んでいます。また、検査入院の際には簡単な質問用紙に患者さんの要望を書いてもらい、例えば「枕を選びたい」という患者さんには数種類の枕を用意するなど、個別に対応もします。さらに検査技師を中心に外来の流れをシミュレーションすることで患者さんの院内滞在時間20分という目標を設定し、達成しています。「患者さんをお待たせしないことを最優先に考えて完全予約制とし、予約時間がずれないように私たちも時間管理を徹底しています」と田中先生は語ります。

### 検診による早期発見は交通安全にも貢献

年間約1,000名の治療実績を挙げる同クリニックは、検診も積極的に行っています。「電車やトラックなどの運転手に対する睡眠障害の早期発見に寄与したいという考えから、JR東海や大手輸送機関などの企業検診を受託しています」。睡眠時無呼吸症候群を検査する終夜睡眠ポリグラフ検査室を16室備え、睡眠医療の分野では日本有数の設備を誇ります。1泊の検査を終えた患者さんが翌朝そのまま職場、学校へ行くことができるシステムなので、休暇をとらずに検査を受けられます。

今後の抱負について田中先生は、「日々の技術、設備の向上を重ねながら、海外研修生の受け入れなども積極的に行い、睡眠医療の啓発に意欲的に取り組んでいきたいと考えています」と語ります。日本に睡眠医療が根付く日もそう遠くはないでしょう。



睡眠の質や脳波・呼吸運動などを一晩かけて測定する終夜睡眠ポリグラフ検査室。患者さんは夜に来院し、各種センサーを装着して眠ります。